

平成 22 年 6 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530604

研究課題名（和文）教員養成カリキュラムにおける「いのち」の教育
－教育内容の構造化と教授法の検討－

研究課題名（英文）"Life & Death Education" in teacher training curriculum

研究代表者

鈴木 真由子（SUZUKI MAYUKO）

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：60241197

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、教員養成カリキュラムで求められる「いのち」の教育内容を検討し、その具体的な教授法を提案することである。学部生を対象とした調査の結果、「いのち」の教育の目的・意義のほか、児童虐待や自傷行為、自殺・自殺予防などへの学習ニーズが高かった。

学部・大学院で試行した授業実践の結果、専門性の高いゲストから学ぶことの有効性が示唆された。また、イメージマップ、ロールプレイ、グループワーク、ドラマ、音楽、文学作品なども受講生の関心を高めるのに役立った。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research is to examine the contents concerning "Inochi" of the teacher training curriculum and to propose the teaching method. As a result of the investigation, the students want to learn about child abuse, the self-injury, the suicide prevention, and the purpose of the education of "Inochi".

The classes were tried in the faculty and the graduate school. The effectiveness of learning from special guests was suggested. Moreover, they were useful so that the image map, the role play, the group work, the drama, music, and the literary work, etc. may also improve participant's concern.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	500,000		500,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,200,000	810,000	4,010,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教員養成 大学 教師教育 カリキュラム 「いのち」の教育

1. 研究開始当初の背景

高度経済成長後、人の誕生と終焉（死）の場面が家庭から病院へ移行した結果、かつて地域社会に存在していた「いのち」の教育が機能を失った。現在は、その代替として、学校教育における展開が模索されている。

我々の暮らす社会を見れば、子ども虐待の相談件数は増加の一途をたどり、年間自殺者数が3万人を越える状況に改善の兆しは見られない。

こうした社会情勢のなか、近年は、小・中・高等学校における「いのち」に関わる学びの実践報告も散見されるようになったが、依然として欧米の直訳型であったり、単発の授業であったりと、体系的な学習とは言いがたい状況にある。また、中央教育審議会答申や学習指導要領の文言に、「人の死」や「いのち」に関わる記述は見られるようになったものの、具体的な授業展開は、一部の意欲的な教員による実践にとどまっている。そのため、大多数の児童・生徒が「いのち（性・生・死）」について学ぶ機会が得られているわけではない。

ましてや大学においては、教養科目（例えば「生命倫理」など）や教科専門科目（例えば「哲学」「倫理」など）では、「人の死」や「いのち」が扱われている可能性はあるが、小・中・高等学校における展開を意識したものではない。それを意識した授業は、ごく一部の意欲的な教員による個人的な努力に基づく実践に過ぎないと言えよう。

2. 研究の目的

研究は、これまでの研究成果をふまえた上で、「いのち」の教育に関する理論的な枠組み研究と、実践的な授業研究を関連付けて継続的に実施するものである。

すなわち、教員養成カリキュラムで求められる「いのち」の教育内容を検討し、その具体的な教授法を提案するところに、本研究の目的がある。

本研究の成果は、小・中・高等学校における「いのち」の教育実践を推進するための、一助となると考えられる。また、こうしたカリキュラムを提供することは、大学生が、ひとりの人間として「いのち」について深く思惟する学習場面を保障することにつながり、その経験は、将来教員となる学生にとって有意義であると考えられる。

3. 研究の方法

(1) 国内外の文献調査・先行研究調査

「いのち」の教育実践の現状を把握するため、国内外の文献やWebで公開されているシラバス、授業実践を調査・分析し、傾向を把握した。

(2) 関係者に対する聞き取り調査

「いのち」の教育について広く意見を求めるため、①終末期医療にたずさわっている医療者、児童相談所等の医療・福祉関連施設の職員を対象にしたヒアリング調査、および②小中学校教育現場において「いのち」の教育を実践してきた教育者を対象としたインタビューを実施した。

(3) 学部生を対象としたニーズ調査

教員養成カリキュラムにおける「いのち」の教育内容について、学ぶ側の立場である学部生を対象にしたニーズ調査を実施した。

2007年11月、教職教養科目「生徒指導論」の受講生約200名を対象に、自記式・質問紙法で、これまで受けてきた「いのち」の教育について、また教員養成系大学が「いのち」の教育に果たすべき役割への期待等について尋ねた。

(4) 教員を対象としたアンケート調査

「性教育＝生（せい）教育」を「いのち」の教育の一環と位置づけ、その視点で教育を行う際に必要と考えられる教員養成カリキュラムについて、2009年2月～7月、大阪府下の現職教員（中高・養護教諭）を対象にアンケート調査を実施した。

主に郵送法で実施したが、一部研修への参加者については直接配布・郵送による回収とし、約500名から回答を得た。

(5) 学部・大学院における授業の試行と評価

学部および大学院の授業で、「いのち」に関するテーマを扱い、多様な授業展開を試みた。また、当該分野で専門性の高い講師をゲストとして招聘した。

授業後には、受講生に授業に対する感想や評価を記入してもらい、分析した。

4. 研究成果

(1) 国内外の文献調査・先行研究調査

まず、関連する国内外の文献を収集・分析し、教員養成カリキュラムのあり方に関する共通理解を深めた。また、教員養成系大学・学部のWebで公開されているシラバスについて、教員養成カリキュラム全体を通して「いのち」に関わる授業がどのように開講されているのか分析した。公開されていない一部の大学・学部のシラバスについては、入手できる範囲において冊子を取り寄せ、同様の観点で調査した。

「いのち」の教育に関連するキーワードとして「生」「性」「死」「いのち（命・生命）」を設定し、検索した。その結果、ヒットした授業の多くは、理科教育（生物）や保健体育の専門科目であり、「いのち」の教育に直接

関わると考えられる授業はほとんど開講されていないことが確認された。

(2) 関係者に対する聞き取り調査

①医療者・福祉関係者の視点として、受容的態度でのカウンセリングが重要であること、その際、共感的コミュニケーションが求められることが明らかとなった。これらは、教育現場においても重視されるべきポイントと言えよう。

②教育実践者の視点として、教員自身の自己開示とともに、教室内が民主的環境であることの重要性が示された。また、教材の可能性と限界について真摯に向き合うことの重要性が確認できた。

(3) 学部生を対象としたニーズ調査

有効回答 173 件のうち、「いのち」に関する学習経験を持つ学生は約 6 割を占めた。その内容は多様であったが、表 1 に示すように、いわゆる性教育が最多であった。また、いじめや、(その結果としての) 自殺も重要なテーマであることが示唆された。

表 1 これまでに受けてきた「いのち」の教育

カテゴリー	件数
性、中絶、避妊、性感染症等	37
死、自殺、いじめ	23
誕生、子どもの環境	13
戦争、原爆、震災	14
「いのち」の大切さ、自己尊重	11
「いのち教育」のあり方	8
その他	30

表 2 教員になる前に学んでおきたいこと

カテゴリー	件数
「いのち」の教育の目的・意義	149
児童虐待の実態・回復・予防	144
自傷行為への対応	137
自殺・自殺予防	135
暴力行為への対応	120
性感染症の予防・避妊	116
教育実践事例	115
教材・教授方法	98
死の概念形成	90
学校・学級での動物飼育	89
教員自身のリスク・マネジメント	78
悲嘆のプロセス・悲嘆からの回復	76
ペットロス	31
無回答	2
宗教と死の関わり	1
“生きている”こと	1
計(回収数)	173

また、教員になる前に学んでおきたいことを複数回答で尋ねたところ、表 2 に示すよう

に、最も多かったのは「いのち」の教育の目的・意義であった。次いで、児童虐待、自傷行為、自殺・自殺予防、暴力行為が続いた。

教育実践事例や教授法に対する学習ニーズも高く、教員養成カリキュラムにおいてこうした学習を展開することの意義が確認できた。

(4) 教員を対象としたアンケート調査

大阪府下の現職教員を対象にしたアンケート調査の結果からは、以下のことが明らかとなった。

まず、回答者の 9 割以上の教員が「いのち」の大切さについて学ぶことが「必要」と考えていることが確認できた。また、教員を志望する大学生に、学んでおいて欲しい教育内容を自由に記述してもらったところ、「死生観」や「いのち」「死について」「自傷行為」といった回答がみられた。

さらに、「いのち」の教育の可能性として、子ども虐待の予防に結びつく可能性も示唆された。

(5) 学部・大学院における授業の試行と評価

授業では、グループディスカッションやイメージマップの作成、二人一組で虐待の相談場面についてのロールプレイ、一人称の死をテーマにしたグループワーク、中学生向けの授業内容の模擬体験等のほか、ゲスト講師による多様な教授法を試行した。ドラマや音楽など、受講生にとって身近な教材だけでなく、児童文学作品(詩・物語)も受講生の関心を高めるのに役立った。

学部生を対象とした授業は、教職関連科目における実践、教科教育法の一部における実践等、複数の可能性を試行した。

特に、大学院生を対象にした授業では、「子どものいのち」と直接的に関与する児童虐待問題について、「身体的な死」「こころの死」という側面から捉えた授業を行った。その際、児童福祉施設の施設長や元児童相談所で虐待対応を行ってきた研究者、特別支援学校で虐待を受けた子どもへの教育実践を行っているゲスト講師を招き、逆境的な環境で育ててきた子どもの「生きること」や「いのち」についての思い、ケア後の回復過程に焦点をあてた学びを行った。

特別支援学校での教育実践からは、子どもが自分の存在を肯定的に捉えることができたのちに情緒や行動が落ち着き、諸活動に意欲的に取り組む様子が明らかとなった。またその際には、教員を中心とする関係者個々人の「いのち」や「生きる意味」についての価値観が問われることも示唆された。

以上のように、教員養成カリキュラムにおいて、「いのち」に関与する多様なテーマについて考える教育の重要性が確認された。

なお、研究業績[図書]①②『教員のための子ども虐待理解と対応』を参照されたい。

また、平成21年度には、それまでの研究成果に基づいて、現職教員を対象とした教員免許更新講座の一部に「食といのち」をテーマにした授業を導入した。受講生からは、こうした教育内容の必要性が確認でき、現職教員を対象とした講座の開講も求められることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ①服部晃次、鈴木真由子、家庭科教育実践事例における「いのち」の授業、生活文化研究、48、43-55、2009、査読無し
- ②田吹和美、堀江美智子、岡本正子、高等学校における児童虐待予防教育の視点から見た家庭科教育、生活文化研究、48、65-78、2009、査読無し
- ③服部晃次、鈴木真由子、教員養成における「いのち教育」の授業実践～一人称の死を考える授業の実現性の検討～、教科教育学論集、8、71-84、2009、査読無し
- ④岡本正子、性的虐待が及ぼす心身への影響、子どもの虹情報研修センター紀要、6、106-124、2008、査読無し

[学会発表] (計4件)

- ①服部晃次、鈴木真由子、一人称の死を考える授業の実現性の検討、第33回死の臨床研究会、2009年11月8日、名古屋
- ②堀江美智子、岡本正子、教員に対する家庭生活習慣に関する調査結果から見た性の規範意識・価値観の検討—性的虐待予防教育のための基礎調査—、第56回日本小児保健学会、2009年10月30日、大阪
- ③田吹和美、堀江美智子、鈴木真由子、丸山智彰、岡本正子、高校生の学校生活、家庭生活の意識・実態調査—児童虐待予防の視点からの家庭科教育—、第13回子ども虐待防止学会、2007年12月15日、三重
- ④鈴木真由子、教員養成系大学生の自尊感情と死生観、第30回死の臨床研究会、2006年11月4日、大阪

[図書] (計7件)

- ①岡本正子他編著、『教員のための子ども虐待理解と対応』、鈴木真由子、「い

のちの教育」の視点から、生活書院、117-129、2009、234頁

- ②岡本正子他編著、『教員のための子ども虐待理解と対応』、岡本正子、薬師寺順子、子ども虐待をとらえる基本的視点、生活書院、11-51、2009、234頁
- ③アメリカ家政学研究会編、『生活の経営と経済』、鈴木真由子、高度生殖医療、家政教育社、155-170、2008、247頁
- ④本間博彰・小野善郎他編著、『子ども虐待と関連する精神障害』、岡本正子、子ども虐待の通告と介入、中山書店、250-261、2008、288頁

[その他]

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木真由子 (SUZUKI MAYUKO)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：60241197

(2) 研究分担者

岡本正子 (OKAMOTO MASAKO)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50379319

(3) 連携研究者

()

研究者番号：